

## 搾乳ライン汚染状況からみた乳質改善対策

：伊那家保 久保田和弘

安全で高品質な生乳生産と効率的な飼養管理を推進するため、平成26年7月から27年12月にかけて4回、管内全戸を対象にバルク乳細菌検査を実施。検討会議を開催し農家を選定。課題農家の個体乳検査及び必要に応じて牛群ドックを行い、総合的に対策を検討。7月までの3回の検査から乳質の改善が不安定的で、搾乳ラインの汚染が課題。ATPテスターにより9戸の搾乳ラインの汚染状況を検査。2戸でバルク攪拌棒、3戸でユニット装着口、4戸で洗浄槽のRLUが高値。さらに酪農場を特定し、搾乳ラインの細菌検査を実施し、洗浄不足を指摘。広報等の全戸配布、重点農家の巡回を実施し、洗浄徹底の意識付を図る。その結果指標となる低温細菌、耐熱性菌の割合が減少。酪農場ごとの課題を提起し、対策を検討するとともに密接な指導が必要。